自己を見つめ、心豊かに学び合う児童の育成

～多様な考えを交流させる授業づくりを通して～

玉村町立玉村小学校　大嶋　祥平

Ⅰ　テーマ設定の理由

今年度、道徳教育総合支援事業の指定を受け、校内研修として「考え、議論する道徳」の具現化に向けて、全校体制で道徳の授業づくりに取り組んでいる。道徳アンケートの結果では、道徳の授業で自分のことについて考えられる児童は多いものの、考えを発表している児童は少なくなるという実態があった。そこで、多様な考えを交流させる授業づくりを通して、心豊かに学び合う児童を育成したいと考えテーマを設定した。

Ⅱ　実践例　４年生

１　主題名　　家族の助け合い（内容項目Ｃ－（１５）：家族愛、家庭生活の充実）

２　教材名　「お母さんのせいきゅう書」（出典：新しいどうとく④　東京書籍）

３　主題設定の理由

（１）＜ねらいとする価値＞

この主題は、学習指導要領における第３章「特別の教科　道徳」、第２の「内容」のＣ「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の（１５）「父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。」を指導内容として位置付くものである。

父母と子、祖父母と孫という家族関係は、血縁によって結ばれているだけでなく、育てたものと育てられたものという人間関係でもある。そこには育てたものの慈しみの心が存在し、不幸にして父母や祖父母のいない子どもでも、父母祖父母に代わって自分を育ててくれた人があり、それが自分の家族あるという捉え方もできる。

しかし子どもたちにとって親の心は理解しにくい。「親の心子知らず」ということわざでもあるように、育ててくれる人が当たり前にいるということは幸せなことであるが、親に感謝したり、敬愛したりする心情まで育っていない。そこで、家族が慈しみの心をもって、自分の成長を見守ってくれる存在であることを気づかせたい。そうすることで、家族に対する敬愛の念が深くなり、家族の一員として、協力し合おうという心が生まれ、楽しい家庭をつくることににつながると考え、本主題を設定した。

（２）　児童の実態

本学級の児童は、家族のためにお手伝いをしている児童が多いことがアンケートから分かった。また、お手伝いをしていないと回答した児童の中でも、「お手伝いというわけではないが」と前置きをしてから家族のために働くことがある旨を述べていた。家族に対して感謝をしている反面、「怒ると怖いからやだ」や、「めんどくさい」と感じる児童も少なからずいる。そこで、子どもの成長を願う親の気持ちを知り、あらためて家族の大切さを感じさせ、家族の一員として協力していきたいという心情を育てたい。

（３）　教材観

たかしは母親に手伝い等の支払いを求めた請求書を渡す。それを見た母親は笑顔でその場をやり過ごす。お昼になり、母親は代金と母親からの請求書を渡す。そこには、今まで育ててきたことを無償とする内容が書いてあった。たかしはそれをくり返して読み、涙があふれてきた。この教材の良さは、母は、たかしならこの請求書の真意をわかってくれるだろうと思い、たかしもその請求書を受け取ってたくさん支えてくれていたことに気づいた点である。母親の行動は、さもすれば回りくどく、いやみったらしく受け取りそうになりがちだが、お互いが敬愛しているからこそ、たかしが涙を流すという現象になったと考える。本教材を通して、自分の家族が愛情をもって接してくれていることに気づき、家族の一員として、協力「しなければならない」ではなく、協力「していきたい」という気持ちを育ませたい。

4　本時の学習

（1）　ねらい　　家族を敬愛し、協力し合って生活していこうとする心情を育む

（2）　準　備　　掲示用請求書（主人公、母）アンケート結果（親）大型モニター

（3）　展　開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	時	指導上の支援
導入	○家族について、今の自分の思いを整理させる。 みんな、家族を愛してる？ めあて：家族愛ってなんだろう	・愛してる！ ・愛してる・・・まではいかないかな。好きくらい。 ・はずかしいけど、まあまあ愛しているかもしれない。 ・でも怒られたりすると嫌だ。	5	・身近な存在である家族に対して、率直な思いを述べさせるようにする。 ・抽象的すぎる児童の発言には、具体的な場面を聞く。
展開	○資料を読み、状況を整理しつつ、主人公と母の心を探っていく。 たかしと母の請求書は何がちがうのだろう。 【補助発問】 ・請求書を出した時の気持ちはどうだったのかな。 【問い返し】 ・わざわざたかしと同じように請求書にしたのはなぜ？ ・なんのために請求書に書いてあることを母はやっているの？ （たかしは 500 円もらったのに、）母のせいきゅう書を見て泣いた時のたかしの気持ちは？ 【問い返し】 ・お金をもらったから笑顔じゃないの？ ・なぜごめんなさい？わがままってどういうこと？ このあとのたかしの気持ちや行動はどう変わっただろう。	たかし ・金額 ・それだけの仕事（時間が少ない） ・おこづかいがほしい ・頑張っていることを認めてほしい。 母 ・無料 ・ずっとしている仕事（時間が長い） ・日頃からやってることに気付いてほしい。 ・たかしを大切に思っているからやっているんだよ。 ・ごめんなさいと思った ・わがままをいっちゃった ・たくさんいろいろしてくれたのにひどいことをしてしまった ・たくさんいろいろしてくれたことに気付いていなかった ・お金は請求しなくなると思う。 ・お母さんのために何かしてあげたいと思う。 ・お母さんと同じように家族としていろいろ手伝うと思う。 	20	・主人公と母の請求書を比較することで、主人公の思ったことを探りやすいようにする。 ○子どもの幸せ願う母の思いをまとめる ・母が叱る意味で請求書を渡したのではなく、主人公の幸せを願っていることに気づいてほしいことがわかるように、意図的に分けて板書する。 ・自分で考える時間、ペア、グループで話し合う時間を取り、主人公の気持ちを深く探れるようにする。 ・なぜ主人公が「罪悪感を感じたのか」を聞くことで、自分のことしか考えていないこと、母がたくさんお世話をしてくれた感謝の気持ちを気づかせる。 ・母の思いを知った主人公が、「家族に協力したい」という心の変容に気づかせる。

	○親のアンケートを紹介し、家族が自分のことをどう思っているかを知る。	・親がいろいろ叱る時があるけど、本当は大切に思ってくれていたんだ。 ・ひどいことを言っちゃったときがあったな。 	10	・テキストマイニングで全ての親が子どものことを思っていることに気づかせる。 ・親の思いを知った上での感想を述べさせる。また、友だちの感想を聞き共感させる。 ・親はそれぞれ自分の子どもの幸せを願っていることを確認させる。
終末	ふりかえりを書く 	・自分のことを大切に思ってくれていることを知った。 ・自分も家族のためにできることはあるかな ・今まで育ててくれてありがとうって言いたい。	10	□家族が自分のことを大切に思っていることを知り、家族のために自分には何ができるかを考えている。

Ⅲ　まとめ

「考え、議論する道徳」を具現化するためには、道徳的価値について主体的に自分ごととして考えること、多様な感じ方、考え方に出会いそれらを交流させることが大切である。これまでの研究により、授業の半分（２２．５分）からは教材文から離れ、道徳的価値について自分ごととして考える時間を確保すること、ペアでの交流、グループでの交流、全体での交流など様々な方法で交流の場を設定すること、共感的な教師の姿勢などを確認しながら実践を進めてきた。

自分の家族からの手紙を資料としたことで、教材文から離れ自分も同じように家族から大切にされていることに気づき、これから家族にどう関わっていったらよいかを真剣に考える姿が見られた。

ペア、グループ、全体と、考えを交流する場を意図的に設定したことで、子どもたちが活発に意見交換する様子が見られた。多様な考えを交流させるためには、補助発問や問い返しの発問を教師があらかじめ考えておくこと、さらに、教師が子どもの考えを共感的に受け止め、子どもと一緒に考えていく姿勢でいることの大切さを改めて感じた。また、子どもの考えを分類しながら整理し、授業の流れが分かるような板書を工夫することも考えを深めていくためには重要なことだと感じた。

今回の実践では、個々の振り返りで家族の自分への思いに気づき、感謝の言葉やこれからの関わりなどを真剣に書いている姿が多く見られた。しかし、時間の関係でそれらを十分に発表することができなかった。高い価値に気付いていたので、それらを発表できたらさらによかった。導入や判読の方法等を工夫するなどタイムマネジメントを意識し、考える時間を十分確保していくことが必要だろう。また、交流の場面で子どもが ICT を使うことはしなかったが、スキルを身に付けさせた上で、考えを交流する場面でも活用していくことも今後の課題としたい。